

# 令和7年度 第2回 佐倉市立美術館運営協議会

## 議事録

日 時：令和8（2026）年3月8日（日） 14：00～16：00

場 所：佐倉市立美術館 4階ホール

出席者：以下のとおり

（委 員 10名）

大久保委員、葛西委員、笠原委員、齊藤委員、田中委員、豊田委員、  
中松委員、長澤委員、樋田委員、安本委員

（職 員 5名）

平野館長、本橋副主幹（学芸員）、木邨主査（学芸員）、  
永山主査（学芸員）、西川主任主事（学芸員）

### 会議次第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報告事項
  - （1）令和7年度事業報告について（公開）
  - （2）令和8年度事業計画について（公開）
4. その他
5. 閉 会

## 【1. 開会】

## 【2. あいさつ】

<館長よりあいさつ>

## 【3. 報告事項】

### (1) 令和7年度事業報告について

<事務局より説明>

(委員)

小学校の出前事業は何年生ですか。また神田外語大学の出前事業と美術館訪問は関連があるのですか。

(事務局)

小学4年生から6年生に実施しました。神田外語大学は出前事業の1週間後に美術館に来ていただくセットになっています。

(会長)

この史代展と広野多珂子展は、漫画や絵本という同じような分野ですが、こんなに入場者数の差があるのは、どう理解したらいいのでしょうか。

(事務局)

この史代さんは、映画『この世界の片隅に』がヒットし、全国的な知名度があります。また長年の漫画雑誌の連載で各地に熱心な読者がいます。金沢、京都と巡回して、関東圏では佐倉だけの開催だったため、東京方面からも多くのファンが来館しました。戦後80年という節目でもあり、「戦時下の暮らし」というテーマが、作家を知らなかった方々の関心も引きつけたのではないかと思います。

広野多珂子さんは、アニメ化された『魔女の宅急便』の原作の第2巻の挿絵は描いていますが、基本的には児童・幼児向けの定期購読誌「こどものとも」などを活動の場としていて、書店に置かれる本より読者層が限られているところはあります。

(会長)

いろいろな要素があるのですね。この美術館は絵本や漫画の分野にシフトしてきましたが、その中で何を選ぶか、文脈というか、戦略として何をしようとしているのか、わかるようにしていくといいかもしれません。

(委員)

夏休みは、お子さん連れが多く来館されましたか。

(事務局)

はい。佐倉は里帰りしてくる場所のようで、お盆の時期はお子さん連れが多くみられました。暑さもあってか、大人は夏休み明けから多くなりました。

(委員)

私の館では通常ウィークデーに子どもは来ない。夏休みはご両親が働いているので、学童保育に行っている。学童の先生方は、この暑さで子どもたちを外に連れていけない。というわけで、学童への出前授業を始めました。土日に親が美術館に連れていってくれるという子どもは恵まれているのです。

(事務局)

学童保育への出前はやっていませんが、民間学童が子どもたちを連れて来館したことはあり、連携をとればと思っはいます。ただバスの予算がコロナ禍で削られ、学校もそうですが来館の手段が課題です。

(委員)

房総のむらや大利根博物館では15年位前から学校への出前事業を行っていて、千葉市内の学童からも依頼があり、夏休みに実施していました。美術館側からこんな出前事業ができますと投げかけてきっかけをつくり、入りやすくすることが一番です。夏休みには子どもたちは朝7時頃から夕方6時頃までずっと学童で過ごし、宿題などをやりますが、外から講師が来る普段と違う事業を彼らも求めています。

(会長)

これは市や教育委員会でも考えていただきたい。

(委員)

学童では子ども同士の喧嘩やケガも多く、親への対応も大変な中で、美術館に連れていくのはなかなか難しい。学童で読み聞かせをしている団体などもあり、美術館側から出ていくのもひとつの方法でしょう。

(会長)

どうすれば美術館活動が活性化するのか、館として考えていくようお願いします。

## (2) 令和8年度事業計画について

<事務局より説明>

(会長)

企画展はやはり絵本や挿絵の分野ですが、その中でどういう文脈を作ろうとしているのか、担当される方のご意見をお願いします。

(事務局)

今村恒美は佐倉ゆかりの作家です。日本出版美術家連盟の会長を長く務めた方で、分野としては「出版美術」というのがよいかもしれません。出版文化が花開いた昭和20年から30年代に活躍しました。当時の原画は数点見つかっていますが、全盛期は印刷物を中心とした展示になると思います。その後、右手が動かなくなり、左手で描き続けていた鈴木演芸場のプログラムの表紙は原画が数多くあります。ただし質的には落ちているので、「江戸への憧れ」という面から紹介しようと考えてい

ます。当時の原画は単に原稿であり、印刷されたものが作品という認識だったのではないかと思います。浮世絵の原画同様、版画をつくる過程でしかない。とすれば印刷物は版画の延長と捉えられないかと考えています。明治時代の本の挿絵は木版画などでしたし、多くの部数をつくる手段が版画から印刷に移ったといえます。

(会長)

印刷物は版画とは言えないのでは。少なくとも美術館で扱っている版画と印刷物は大分違うように思います。

(委員)

大衆向けのメディアが、ある時期までは木版でその後印刷になる。技術的には変わっても地続きなのではないでしょうか。

(委員)

油絵などは1点しかないですが、版画は複数同じものがある美術作品。1点の原画よりも複数あることに価値がある、という意味では「版画」も「出版美術」も本質的に同じなのかもしれません。

(委員)

石版も原画から版を起こして、1枚物の絵にしたり、本にしたりしています。部数が多くなるほど希少価値はなくなっていくでしょうが。

(委員)

文化庁がクールジャパンを押し出し、ファインアートより漫画やアニメ、という時代の大きなムーブメントがあり、美術の世界でヒエラルキーの逆転が起きているようにみえます。それでも今年から来年の企画展、4つも続けて本当にいいのか。佐倉としてはモンキーパンチなどからの流れもあるとは思いますが、なぜ取り上げるのかを明確にして欲しいと思います。1日あたりの入場者数では、いわゆるファインアートである新春佐倉美術展が一番多い。佐倉市立美術館は両方があって面白い構成になっているし、これを議論していくことも面白いと思います。

(会長)

ファインアートを頂点としたピラミッドの下の方にサブカルチャーがあるという従来の構図からパラダイムシフトをしています。「原画」と「版画・印刷物」という小さなところでもそうした逆転があって面白い試みだとは思いますが。

(委員)

もともと本に関係する展覧会は、そうした動きとは関係なく、向かいにできた図書館との連携として始まったものでしょう。

(会長)

しかし、それが新しい展開を引き起こしています。次の収蔵作品展はいかがでしょう。

(委員)

昭和100年でもあり、良いと思いますが、何を展示するのでしょうか。

(事務局)

山川惣治と新収蔵の高橋真琴など、高度成長期を背景として普及した漫画や雑誌などを「夢見る時代」というテーマにつなげていきたいと考えています。

(委員)

こうした企画をくり返しながらか、日本中の美術館が持っているサブカルチャー作品を掘り起こして、企画展、巡回展としていけたら面白いかもしれません。

(会長)

五味太郎展についてはいかがでしょう。

(事務局)

これは巡回展です。五味太郎先生の400点近い絵本と、絵本原画・タブローを展示します。絵本から派生したアニメーションもあり、いろいろな角度から作家を紹介します。

(会長)

結局、こうした展覧会は、明治以来、西洋からファインアートを学んで日本なりに解釈してきた歴史から逸脱していくことに繋がっていくのでしょうか。

(委員)

版画や印刷だけでなく、今の学生などはデジタルでつくってプリントして、ということになると、展覧会で何を展示すべきか、わからなくなってきました。

(会長)

走りながら考えていくしかなさそうですね。

(委員)

今まで美術館に来なかった人たちが来るようになった一方で、ファインアートが好きな人たちは来なくなっているということはないのですか。

(会長)

それもあるかもしれませんね。他にはいかがでしょう。

(委員)

「醫風一変」という企画は佐倉市主催ということですが、松本良順、ポンペ、佐藤尚中などを取り上げるならば、ぜひ順天堂記念館と連携したらよいと思います。

(委員)

医学と美術という観点から、協力して展覧会を作ってもよかったですのではないのでしょうか。

(会長)

新春佐倉美術展は実行委員会が主催ですが、これをもっと面白くしていけませんか。工芸はよい作品が増えていますが、これなら県展に出せるとか、その上に日展があるというようなヒエラルキーの意識があるように思います。

(委員)

絵画については最終的に県展、日展に移っていくヒエラルキーの中にあるとは思いません。県展に入選した作品が新春展に落選した例もあります。若い人は根付きませんが、出品者は減っていません。全国的な団体展で活躍する人たちの作品を地元

で見せる役割も担っています。

(委員)

県展では市町村との差別化が話題になったことはありません。若い人が少ないという問題は共通していて、近年は高校生にも出品してもらっています。

(会長)

新春展の作品は、入選するためにどう作るかではなく、自分の生活からの表現であるところが面白いと思います。

(委員)

新春展はレベルが高く、新春展入選が佐倉美術協会に入る基準にもなっています。工芸では新春展から県展へという流れが確かにあります。

(委員)

書は、後から新春展に入った経緯があり、公募などは難しいと思います。

(委員)

ギャラリートークは長時間になるので、ホールでのスライドショーにした方がよいのでは。

#### 【4. その他】

令和9年度以降の事業計画について

<事務局より説明>

(会長)

これについては、また今後検討していくということによろしいでしょうか。それではこれで終了します。

#### 【5. 閉会】